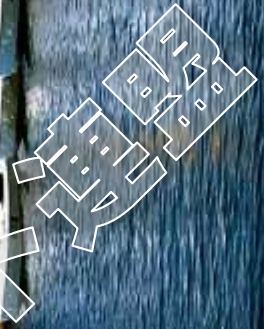


All Japan Intercollegiate
Sailing Championships
individual game and
single hand regatta
2019



Web版

中部学生連合会



 伊藤園
自然が好きです。

鮮度たっぷり。



2019 年度 全日本学生ヨット個人選手権大会

2019 年 全日本学生シングルハンドレガッタ

開催地 : 愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー沖

大会期間 : 令和元年 9 月 5 日 (木) ~ 令和元年 9 月 8 日 (日)

共同主催 : 全日本学生ヨット連盟、 中部学生ヨット連盟

公 認 : 公益財団法人 日本セーリング連盟 [承認番号 2019-05]

後 援 : 蒲郡市 蒲郡市教育委員会 中部ヨット協会
愛知県ヨット連盟 日本 470 協会 日本スナイプ協会

特別協賛 : 日建レンタコムグループ 日建レンタコム株式会社
日建リース工業株式会社 日建片桐リース株式会社

協 賛 : 明治商工株式会社 株式会社伊藤園 蒲郡市観光協会

協 力 : 豊田自動織機海陽ヨットハーバー 蒲郡三谷温泉平野屋

-目次-

大会御挨拶	1
大会役員	9
競技役員	10
レース公示	11
帆走指示書	20
国際 470 クラスエントリー表	29
国際スナイプクラスエントリー表	32
シングルハンドレガッタエントリー表	35
歴代優勝者	37
会場案内図	39
大会最終日の注意事項	40
ビクターヤード区画表	41

ご挨拶

公益財団法人
日本セーリング連盟
会長 河野 博文



2019 年度全日本学生ヨット個人選手権大会ならびに 2019 年全日本学生シングルハンドレガッタが、豊田自動織機海陽ヨットハーバーで開催されますことをお慶び申し上げます。

はじめに、この大会開催にあたり、蒲郡市、蒲郡市教育委員会ははじめ多くの皆様のご後援、御協力をいただきましたことを感謝申し上げます。また、ご協賛を頂いた日建・レンタコムグループ各社、明治商工株式会社、株式会社伊藤園、蒲郡市観光協会には心からお礼申しあげます。

セーリング競技は、体力だけでなく、経験と知的能力が大きな要素となるスポーツであり、過去のこの大会の参加選手からも、世界でも活躍する選手を輩出しています。皆さんも是非世界へ羽ばたいて行っていただきたいと思います。

また、社会にでても、これまでセーリングを通して培った経験と知識を生かして、様々な場で活躍していただきたいと思います。

2020 年東京オリンピックに向けて、ヨット界も活動が本格化しています。

今年は、オリンピック種目のレーザー級、470級の世界選手権が日本で開催され、オリンピックのテストイベント、ワールドカップシリーズ江の島大会も開催されました。

そして来年はオリンピック本番を迎えます。今回、蒲郡の海に集まったセーラーの皆さんが来年のオリンピックを手伝い、そしてその後は選手として、あるいはレースオフィシャルズとして、世界で活躍されることを期待しています。

終わりに、この大会が好天に恵まれ、安全に運営され、参加選手が存分に活躍されますことを祈念して、私のご挨拶といたします。

歓迎のごあいさつ

愛知県ヨット連盟
会長 小栗 一郎



「2019 年度全日本学生ヨット個人選手権大会」「2019 年全日本学生シングルハンドレガッタ」が、愛知県蒲郡市の「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」において開催されるにあたり、愛知県ヨット連盟を代表し、全国各地からお集まりいただき選手、監督ならびに大会関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

豊かな自然に囲まれ、一年を通じてセーリングに最適な風が吹く三河湾に面した蒲郡は、日本初のセーリングワールドカップや全日本選手権が開催されるなど、セーリングスポーツの一大拠点であり、また、2026 年には第 20 回アジア大会の開催が決定しております。

この地で大会が開催されることは、愛知県におけるセーリング競技の普及、振興にも寄与する、たいへん意義深いものです。さらには、皆様がその実力を競いあうことは、いよいよ来年に迫った東京オリンピックに向けて、日本のセーリング界をますます活気づけていただくことにつながります。皆様が、日ごろの練習の成果を存分に発揮され、本大会が今シーズンの素晴らしいレースの一つとして記憶されるよう、また、そうした切磋琢磨の中から、これからの日本セーリング界を牽引されることを、大いに期待しております。

この蒲郡の歴史や文化、人々に接していただきながら、全国から集まった皆様の交流がさらに深まり、本大会が思い出深い、すばらしいものとなりますよう、心からお祈り申し上げます。

本大会開催にあたり、ご尽力いただきました関係の皆様に深く敬意を表するとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、歓迎のことばといたします。

歓迎のごあいさつ

蒲郡市長
稲葉 正吉



「2019年度 全日本学生ヨット個人選手権大会 2019年全日本学生シングルハンドレガッタ」が、ここ蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーを会場として開催され、全国各地から多くの選手、役員の皆様をはじめとする関係者をお迎えできますことは誠に喜ばしく、地元市長として心から歓迎申し上げます。

蒲郡市は、本州中部に位置し、温暖な気候と美しい風景に恵まれた三河湾国定公園の中心にあり、渥美半島と知多半島に囲まれた海辺の観光地であります。私自身も大学時代からヨット競技に熱中しておりましたので、海に対する思い入れはとて強く、皆様方のように海を愛する人たちが本市の海で白熱したハイレベルなレースを展開していただけることを大変楽しみにしております。

本市はヨット競技と馴染みが深く、世界一周を果たした「エリカ号」の蒲郡帰港を記念して始まった「エリカカップヨットレース」をはじめ、東京オリンピックの前哨戦となるセーリングワールドカップの日本初開催の地になるなど、まさにヨット競技の中心地となっております。

選手の皆様には、日頃鍛えた力と技、練習の成果をこの三河湾を舞台に存分に発揮していただき、素晴らしいレースを展開していただきたいと思います。そして、将来、日本代表選手として日本セーリング界を牽引していただきますことを大いに期待しております。

最後に、本大会開催にご尽力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げますとともに、大会のご成功とヨット競技の益々のご隆盛を祈念申し上げまして、私の歓迎のご挨拶とさせていただきます。

会長挨拶

全日本学生ヨット連盟
会長 松下 淳一



片山前会長の後任として、本年 4 月より全日本学生ヨット連盟の会長を務めております松下です。どうぞよろしくお願い致します。

2019 年度全日本学生ヨット個人選手権大会及び 2019 年全日本学生シングルハンドレガッタが、愛知県蒲郡市の豊田自動織機海陽ヨットハーバーにおいて、盛大に開催されることとなりました。

今大会の開催に向けては、共催の中部学生ヨット連盟をはじめとして、特別協賛の日建・レンタコムグループ各社様、後援の蒲郡市、蒲郡市教育委員会、中部ヨット協会、愛知県ヨット連盟、日本 470 協会、日本スナイプ協会等々、多数の関係者・関係団体の皆様から手厚いご協力、ご支援を頂戴しています。全日本学生ヨット連盟を代表して、皆様に心より御礼申し上げます。

厳しい選抜を経て今大会に出場する権利を得た選手の皆さんは、ここに至るまでに、監督・コーチの指導の下に真剣かつ熱心に日々の練習に取り組んできたものと思います。その練習の成果を、今大会という晴れの舞台上、心残りのないようのびのびと発揮して頂きたいものです。日々の練習の過程で、肉体的のみならず精神的にも鍛練を重ねてきたことにより、たとえ予期せぬ困難な事態に直面することになっても落ち着いて本来の自分の実力を発揮できるようになっているはずであるという確信をもってレースに臨んで下さい。

また、今大会に出場する選手の皆さんは、レースの主体であるというだけではなく、ヨット界や大学スポーツ関係者、そして何よりも地域住民の方から注目される存在でもあるということに留意して下さい。正々堂々と競技に臨むことももちろん重要ですが、気持ちのよい笑顔で礼儀正しく振る舞いながら周囲を気遣うことであるや、様々な出会いの中で豊かな人間関係を育むように努めることも同じくらい重要なことです。

最後になりましたが、改めまして、今大会の実施に当たって、ご尽力、ご協力を頂いている諸団体及び関係者の皆様に、連盟を代表して心より感謝の意を表します。

今大会が、出場選手やご関係の皆様にとって思い出深い大会になることを祈念すると同時に、2020 年東京オリンピックにつながる場となることもあわせて祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

全日本学生ヨット連盟
副会長 古川 裕之



みなさま、ようこそ蒲郡の豊田自動織機海陽ヨットハーバーへ。開催地選出の副会長として、一言ご挨拶申し上げます。

ここ豊田自動織機海陽ヨットハーバーは、風に恵まれ波があまりたたず、アンカーもよく効きハーバーを出ればすぐにレース海面が取れるという点で、ディンギーレースをするには大変恵まれた環境であると言えます。新たに整備いただいた大屋根は、激しく照り付ける太陽や降りしきる雨からみなさんをしっかりと守ってくれることでしょうか。まさしく一つ屋根の下に集い、本大会を迎えることができたことを大変よろこばしく思います。

この大会に出場する選手のみなさんは、各水域での厳しい予選を勝ち上がってきた精鋭です。団体戦ではチームの勝利のために我慢することもあるかと思いますが、本大会は個人戦ですので、思う存分に自分の力を発揮していただきたいと思います。また、この大会からオリンピック選手が生まれることを心より期待しております。

レースの勝ち負けも重要ですが、他の選手や運営に携わる多くの方々との交流を通じて、人格的に成長したと自覚できる体験を持つことも同じくらい重要です。多くの交流を通じて、素晴らしい人と出会うこと、そして相手からも素晴らしい人だと思われること、そういう体験を本大会で経験することができれば、それはみなさんにとって一生の財産となるでしょう。

最後に、本大会の開催にあたっては、愛知県ヨット連盟の皆様、大会役員の皆様、蒲郡市の方々、豊田自動織機海陽ヨットハーバーの皆様には大変お世話になっており、深く感謝申し上げます。また、身内のことではございますが、中部学生ヨット連盟の役員、学生諸君には大会の準備や運営で多大の貢献をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

ご挨拶

中部学生ヨット連盟
会長 石倉俊宏



「2019 年度全日本学生ヨット個人選手権大会」「2019 年全日本学生シングルハンドレガッタ」が、愛知県蒲郡市の「豊田自動織機海陽ヨットハーバー」において開催されるにあたり、中部学生ヨット連盟を代表し、選手、監督ならびに大会関係者の皆様を心から歓迎申し上げます。

三河湾は、セーリングスポーツに適した環境にあり、本大会が開催されます豊田自動織機海陽ヨットハーバーは、毎年、全日本学生ヨット個人選手権大会をはじめとした大学生の全日本大会を開催しており、皆様に非常に馴染みのあるハーバーであります。また、大規模な設備改修もされ今まで以上に素晴らしいハーバーになりました。

このような素晴らしい環境に負けないよう、中部学生ヨット連盟役員一同、周到に準備を進めてまいりました。皆様には、これまでの成果が十分発揮できるよう日ごろの練習の成果を存分に発揮され、是非学生ヨット個人日本一の称号を手にしていただければと思っています。

今回の全日本学生シングルハンドレガッタは、豊田自動織機海陽ヨットハーバーに新たに配備していただきましたレーザーラジアル艇を中心に使用して実施します。

過去最多の 20 艇が参加していただき、コースもこれまでのL2からトラペゾイドに変更した事によりさらに楽しめるレースが出来るのではないかと期待しております。選手の皆さんぜひ頑張ってください。

最後に本大会開催にあたり、ご協賛、ご協力いただきました企業、団体の皆様をはじめ役員の皆様に深く感謝するとともに、本大会の成功を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

委員長挨拶



全日本学生ヨット連盟
委員長 戸沢 真也

この度「全日本学生ヨット個人選手権大会」が愛知県 豊田自動織機 海陽ヨットハーバーにおいて開催される運びとなりましたことを、心からお慶び申し上げます。

本大会は学生のトップを決める大会です。皆様はこの全日本の頂点をとるために日々努力を重ねてこられたはずで、2020年の東京オリンピックに向け、セーリング競技を活性化するためにも、また各水域の代表として、この蒲郡の地を惜しくも踏むことの出来なかった人達の方も、誇りを持って戦って頂きたいと思っております。

また、ヨットスポーツは決して個人の力だけでは到底できないスポーツであります。その方々への感謝を忘れずに本大会に臨んで頂ければと思っております。

皆様が最後まで怪我なく、本大会を存分に楽しみ、最大限のチカラを発揮出来るよう、心より祈っております。

また、今大会開催に際し、多大なるご支援をいただきました関係諸団体、および関係者各位の皆様には厚く御礼申し上げます。



中部学生ヨット連盟
委員長 真野 創太

「2019年度全日本学生ヨット個人選手権大会」「2019年全日本学生シングルハンドレガッタ」が愛知県蒲郡市豊田自動織機海陽ヨットハーバーにおいて開催される運びとなりましたことを大変うれしく思います。

各チームが学生の頂点に立つために、厳しい練習を乗り越え一年間努力してきたと思っております。この大会に参加できるのも、部内の仲間だけでなく、監督・コーチ、ハーバーの職員さんなど多くの方々の支えがあったおかげであると思っております。しかし、実際レースを変えていくのは選手の皆様です。各水域の厳しい予選を勝ち上がってこられた選手の皆様が本大会で最大の力を発揮できるように、中部学生ヨット連盟も全力でサポートさせていただきます。学生最後の個人選手権となる選手もそうでない選手もこの大会に悔いが残らないよう力を出し切れることを祈っております。最後となりましたが、本大会開催にあたり、多大なるご支援をいただきましたご協賛、後援、企業の皆様はじめ、役員の皆様はこの場をかりて御礼申し上げます。



大会役員

大会名誉会長	河野 博文	公益財団法人 日本セーリング連盟	会長
大会名誉副会長	関山 正	全日本学生ヨット連盟	名誉会長
	稲葉 正吉	蒲安市 市長	
大会会長	松下 淳一	全日本学生ヨット連盟	会長
大会副会長	古川 裕之	全日本学生ヨット連盟	副会長
	小栗 一郎	愛知県ヨット連盟	会長
大会顧問	市川 隆	中部学生ヨット連盟	顧問
	鵜飼 通夫	中部学生ヨット連盟	顧問
	森 信和	愛知県ヨット連盟	副会長
	渡邊 剛	全日本学生ヨット連盟	副会長 北海道水域
	伊藤 則之	全日本学生ヨット連盟	副会長 東北水域
	紙谷 雅子	全日本学生ヨット連盟	副会長 関東水域
	佐久間春夫	全日本学生ヨット連盟	副会長 近畿北陸水域
	梅田 直哉	全日本学生ヨット連盟	副会長 関西水域
	羽倉 義雄	全日本学生ヨット連盟	副会長 中国水域
		全日本学生ヨット連盟	副会長 四国水域
	桧垣 靖樹	全日本学生ヨット連盟	副会長 九州水域
大会委員長	石倉 俊宏	中部学生ヨット連盟	会長
大会副委員長	石川由賀里	中部学生ヨット連盟	副会長
	坂浦 真希	中部学生ヨット連盟	理事
大会委員	真野 創太	中部学生ヨット連盟	委員長
	戸沢 真矢	全日本学生ヨット連盟	委員長
	亀井 千尋	北海道学生ヨット連盟	委員長
	佐藤佳奈子	東北学生ヨット連盟	委員長
	上田 瞬平	関東学生ヨット連盟	委員長
	巖 尚輝	近畿北陸学生ヨット連盟	委員長
	尾井 恵子	関西学生ヨット連盟	委員長
	渡邊 佳穂	中国学生ヨット連盟	委員長
	野村 光哉	四国学生ヨット連盟	委員長
	都田 悠輔	九州学生ヨット連盟	委員長

競 技 役 員

レース委員会

委員長	岡田 彰				
副委員長	谷 隆之				
委員	坂井正和	永田真紀			
事務局	近藤真太郎				
I R O	岡田 彰				

プロテスト委員会

委員長	南原健一				
委員	小野内健太	本多哲也	白井一志	鷺見知幸	福田 久
	児山弘昌	廣野晴保			
事務局	酒井惟司	平野桂人			

海上運営本部

本部長	岡田 彰				
副本部長	谷 隆之				
部 員	新美忠邦	白川健一	石黒裕之	山本浩資	生田真紀夫
	岡村勝美	篠宮元子	古川紀恵	伊藤 毅	近藤真太郎
	百済裕人	安田大介	石黒武志	贄 洋佑	朝倉由美香
	永田 拓	上村享平	澤田裕介	中溝晃弘	林佳奈美
補助役員	園部友香	稲垣佑真	上村侑大	斎藤圭吾	田中將智
	三好朝輝	仲村駿希	大崎歩夢	城井満月	阪倉海斗
	大島沙也	三浦裕玖	山田莉大	水野利紀	内藤李久
	矢野聡美				

総務部

部 長	永田真紀				
副部長	鈴木志寿浦				
部 員	森由美子				
補助役員	菅谷涼太	矢ヶ崎新	石川祐輝	小野 彩	山野萌子
	中島光晴				

記録部

部 長	坂井正和				
副部長	小嶋光稀				
補助役員	高木榛名	北山阿廉	上田敏暉	森本友梨	

テクニカル委員会

委員長	谷 隆之				
副委員長	生田真紀夫				
補助役員	上村侑大	斎藤圭吾	阪倉海斗	三浦裕玖	田中將智
	仲村駿希				

2019 年度全日本学生ヨット個人選手権大会
2019 年全日本学生シングルハンドレガッタ

開催地： 愛知県蒲郡市 豊田自動織機海陽ヨットハーバー沖
大会期日： 2019年9月5日(木)～2019年9月8日(日)
共同主催： 全日本学生ヨット連盟 中部学生ヨット連盟
公認： (公財)日本セーリング連盟【2019-05】
後援： 蒲郡市、蒲郡市教育委員会、中部ヨット協会、愛知県ヨット連盟
日本470協会、日本スナイプ協会
特別協賛： 日建・レンタコムグループ 日建レンタコム株式会社 日建リース工業株式会社
日建片桐リース株式会社
協賛： 明治商工株式会社 株式会社伊藤園 蒲郡市観光協会
協力： 豊田自動織機海陽ヨットハーバー 蒲郡三谷温泉平野屋

レース公示

「SP」レース委員会から審問なしにまたは、プロテスト委員会の審問によりスタンダード・ペナルティ一が課せられる。

「NP」艇からの抗議の根拠とはならない。これは規則 60.1(a)を変更している。

1. 規 則

1. 本大会は「セーリング競技規則 2017 - 2020」(以下規則)に定義された規則を適用する。但しこれらの規則等のうち、本レース公示または帆走指示書(以下指示)によって変更されたものを除く。
2. 最新の「全日本学生ヨット連盟規約」「470級学連申し合わせ事項」「スナイプ級学連申し合わせ事項」および「艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項」を適用する。これらは全日本学生ヨット連盟にて入手することができる。
3. 規則付則Pの「セール番号」を「セール番号または識別番号」に置き換え適用する。
4. SCIRA規則の「国内及び国際選手権大会の運営規定」は、同規定9.1に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2. 競技種目

2019年度全日本学生ヨット個人選手権大会 : 470クラス、スナイプクラス
2019年全日本学生シングルハンドレガッタ : レーザーラジアルクラス

3. 資格及びエントリー

1. 470クラス、スナイプクラスの1チームは、ヘルムスマン1、クルー2名以内とする。
2. レーザーラジアルクラスは1名とする。
3. 選手は全日本学生ヨット連盟規約6条を満たしており、各水域の推薦を得ている者。

470クラス、スナイプクラスの各水域推薦枠は、次のとおりとする。

北海道	東北	関東	中部	近畿 北陸	関西	中国	四国	九州	合計
3	3	18	4	6	6	4	3	6	53

4. 選手及び監督、コーチは、2019年度(公財)日本セーリング連盟会員であること。

5. 470クラスの選手は、日本470協会の2019年度団体会員登録を完了している大学ヨット部に所属していること。
6. スナイプクラスの選手は申込時点で2019年度SCIRA登録済みであること。
7. レーザーラジアルクラスの選手は、レーザークラス協会に登録済みであること。
8. スポーツ安全保険（人身・物損補償）相当の保険に加入していること。

4. 日 程

9月5日	(木)	受付 計測	9:30~16:00
9月6日	(金)	受付・計測	8:30~ 9:30
		ブリーフィング	9:45~10:15
		開会式	11:00~11:30
		1日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		470クラス	13:00
		スナイプクラス	13:07
		レーザーラジアルクラス	13:12
9月7日	(土)	ブリーフィング	8:15~ 8:30
		2日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		470クラス	9:30
		スナイプクラス	9:37
		レーザーラジアルクラス	9:42
9月8日	(日)	ブリーフィング	8:15~ 8:30
		3日目の最初のレース	予告信号予定時刻
		470クラス	9:30
		スナイプクラス	9:37
		レーザーラジアルクラス	9:42
9月8日に表彰式及び閉会式を実施する			

1. 本大会のレース数は、各クラス最大8レースを予定し各クラス3レースをもって大会成立とする。
2. 1日に実施するレース数は、次のとおりとする。

日 程	470クラス	スナイプクラス	レーザーラジアルクラス
9月6日(金)	3	3	3
9月7日(土)	4	4	4
9月8日(日)	1	1	1

本大会で計画された全レースを行うため、当日までの計画に対して1レースを超えないまで、レースを前倒しで行う場合がある。

3. 各日程における各クラスの次のレースはそれぞれ可能となれば、引き続き実施する。
4. 9月6日、9月7日は16:01以降、9月8日は13:01以降に予告信号は発せられない。

5. 艇

1. 艇は原則自己所有艇とし1艇の予備艇を認める。主催団体が認めた場合は参加者がチャーターした艇も可とする。470クラスおよびスナイプクラスのチャーター艇は学連登録艇に限る。
2. スナイプクラスの艇は2019年度SCIRA登録済であること。
3. [DP]艇体には【添付図A】に示す『艇体への大学名表示に関する学連申し合わせ事項』に定められた表示をすると共に、主催団体が準備した識別番号を指定した位置に貼り付けしなければならない。
4. 艇の交換は破損による場合のみとし、事前にテクニカル委員会の許可を得なければならない。新たに使用する艇は大会計測を完了していなければならない。

6. セール

1. セールは各チームが持参し、1セットの予備セールを含んだ2セットまでとする。また、レーザージャギアルクラスは主催者が用意したチャーターセールも可とする。
2. 470クラスのセールは、基本計測を完了していなければならない。
3. スナイプクラスのセールは、2019年の年度計測を完了していなければならない。
4. 艇は、他艇と同一のセール番号を同時に使用してはならない。
5. 艇は、オリジナルのセール番号に数字・形象等を付加した、各クラス協会に登録されていないセール番号を使用してはならない。
6. 470クラスのメインセールとスピナーカーのセール番号は同一でなければならない。
7. 予備セールの使用は、セールの紛失又は補修ができないほどの損傷があった場合のみとし、テクニカル委員会の許可を得なければならない。新たに使用するセールは大会計測を完了していなければならない。

7. 計測

1. 参加するチームは、艇体および予備のセールを含むセールに関する各水域のオフィシャル・メジャーによる大会事前計測を完了したことを証明する「大会計測完了証明書」を提出するとともに、「大会計測済みスタンプ」の確認を計測受付にて受けなければいけない。また、この計測は、2019年7月27日(土)以降に実施したものが有効となる。
2. [DP]「大会計測完了証明書」発行後は、改造を行ってはいけない。計測後に修理・改造を行った場合は、再計測を受けなければいけない。
3. 各水域でやむを得ず計測ができなかったときやテクニカル委員会が指定した計測を除き、新たにセール等の計測を大会で実施する場合は、計測料として3,000円を支払うこと。この場合、理由によっては大会での計測は行わない。
(受け付けられない理由例：至近で新たにセールを購入して届いたから等の理由)

8. 参加申込み方法

参加資格のあるチームは、①②および③（レーザーラジアルチャーター希望者のみ）の項目の書類を電子メールで申込するとともに全ての申込書類を郵送すること。

- ① 参加申込書-1、参加申込書-2（競技者名簿）
- ② 参加申込書-3（支援艇許可申請書）
- ③ レーザーラジアルチャーター申込書
- ④ エントリー料・識別番号料の振込み領収書の写し
- ⑤ 参加申込書に記載した競技者全員および監督、コーチの『2019年度（公財）日本セーリング連盟会員証』*の写しもしくは『JSAF 会員 web 画面』の写し
※日本セーリング連盟会員証は、JSAF ホームページよりダウンロードし印刷可能
詳細は、JSAF へ問い合わせのこと。
- ⑥ スナイプクラスの競技者は、『SCIRA へのメンバー登録番号』を参加申込書-2に記載のこと
- ⑦ レーザーラジアルのチャーター希望者は、電子メールで申し込み後、主催団体から申し込んだメールアドレス先にチャーターの可否を連絡するので、連絡後1週間以内にエントリー料等を振込むとともに全ての書類を郵送すること。

(ア) 項目書類は、2019年7月29日(月)17時までに電子メールで必着すること。

また、上記の申込書類を 2019年7月31日(水)までに郵送で必着すること。

(イ) 項目書類は、申込み期日までに間に合わなかった場合、問合せ先に電子メールと電話にて連絡したうえで、2019年8月22日(木)までに電子メールで必着すること。

(ウ) 参加申込書-3は、随時受付する。ただし、15.6による。

郵送先 郵便番号 488-0858
住 所 愛知県尾張旭市白鳳町 2-44
氏 名 石倉俊宏
E-mail: chubu icyf. alljapan@gmail.com

振り込先 三菱UFJ銀行 松阪支店 店番 532 普通 0090143

口座名義 全日本学生ヨット選手権（ゼンニホンガクセイヨットセンシュケン）

※銀行では口座名「チユウガクセイヨットレンメイ イクラ トシロ」で表示されることがある。

振り込みは、大学名と個人名を両方記入の上振込して下さい。

例 アイチダイ アイチタロウ

締め切り以降の申し込みに対しては、レイトエントリー扱いとし、8月4日(金)17時までに限り、所定のエントリーフィーに対し50%のペナルティーフィーを支払う事を条件に参加を認める。この場合、パンフレットへの名前は掲載されないことがある。また、申し込み後の返金は一切応じない。申込書類の記載等に不備がある場合は、エントリーは完了しない。

9. 参加料

エントリー料	470 クラス、スナイプクラス	20,000 円/艇
	レーザーラジアルクラス	10,000 円/艇
識別番号料		2,100 円/艇

識別番号料は、予備艇分も支払うこと。

レーザーラジアルクラスチャーター料（9月6日～8日利用分のみ）12,360 円/艇

エントリー料には、9月6日から9月8日の給水設備使用料を含む。

これ以外のハーバー使用料は、各チームでハーバー窓口に支払うこと。

レーザーラジアルクラスのチャーターの申込は、申込書にて8のE-mailに送付することにより申込みを行うことが出

来る。但し艇数に限りがあるため、先着順とする。艇の抽選は、大会委員会で公正に実施し8月25日（日）までに参加選手に連絡する。

10. 帆走指示書の交付

1. 2019年7月31日（水）までに各水域学連委員長宛に送付するとともに、中部学生ヨット連盟のホームページへ掲載する。URL https://www.ayf.jp/chubu_jcyf

2. 帆走指示書に対する質問は、8月22日（木）までに参加申し込み郵送先に到着するように、文書で提出の事。

質問に対する回答は、9月6日ブリーフィング開始までに公式掲示板に掲示される。

11. 受付

参加チームは、次の書類等を提出し受付を完了させなければならない。

- ① 選手の(公財)日本セーリング連盟会員証。
- ② 監督・コーチの(公財)日本セーリング連盟会員証又はその写し。
- ③ 470クラスは計測登録証明書及びINTERNATIONAL 470CLASS Measurement Form
ただし、2011年7月29日以前に登録された艇は、上記に加え計測登録証明書（原本）
- ④ スナイプクラス計測証明書。
- ⑤ 「参加申込書-3」（「支援艇許可申請書」）の写し

12. 得点

1. 艇のシリーズ得点は、完了したレースが5レース以下の場合、全レースの合計得点とし、6レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。

2. 最優秀選手の選出において、470クラス、スナイプクラスで成立したレース数が異なる場合、艇の得点の平均値（小数点以下2位を四捨五入）を求め、少ない方を上位とする。

それでもタイとなった場合は、成立したレース数が多いクラスの選手を上位とする。成立したレース数が同じで得点がタイとなった場合は、規則A8を適用する。それでも解けない場合は、両クラスのヘルムスマンを最優秀選手とする。

13. コース

【添付図 B】の見取り図はレグ間の通過するマークの順序及びそれぞれのマークを通過する側を含むコースを示す。

14. 賞

賞は次のように与えられる。

470 クラス スナイプクラス 賞状 1位～6位 賞品 1位～3位

レーザーラジアルクラス 賞状 1位～3位 賞品 1位～3位

470 クラス. スナイプクラスの 1 位の選手には小澤杯を授与する。

470 クラス. スナイプクラスの中で最少得点の選手（ヘルムスマン）には最優秀選手賞
関山旗を授与する。

15. 支援艇

1. 支援艇とは、規則の定義にある支援者が乗艇する全ての艇を指す。
2. 支援艇を持ち込む場合は、受付時に、「参加申込書-3」として郵送した「支援艇許可申請書」のコピーを提出してレース委員会に登録し、「支援艇許可証」を受け取らなければならない。
3. [NP] [DP] 豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援艇は、主催団体が指定する棧橋以外に係留してはならない。豊田自動織機海陽ヨットハーバー以外より一時的に持ち込んだ支援艇は、1 回あたり 15 分を越えて豊田自動織機海陽ヨットハーバー内の棧橋に係留してはならない。
4. [NP] [DP] 豊田自動織機海陽ヨットハーバーに一時的でも入港する支援艇は、海陽ヨットハーバーの所定の手続きを行い使用料の支払いをすること。
5. [NP] [DP] 支援艇は、水上にいる間、大会本部で貸与する識別用リボンを目立つように掲揚しなければならない。『識別用リボン』は、水面より 1m 以上の高さに掲揚するとともに、支給する『支援艇許可証』を目立つように掲示しなければならない。
6. 2019 年 8 月 23 日（金）（郵送の場合は消印）以降に申し込む場合は、500 円/艇の手数料を支払わなければならない。

16. 責任の否認

1. 競技者は、自分自身の責任において本大会参加している。
（規則 4「レースをすることの決定」を参照）
2. 主催団体は、本大会前、本大会中、本大会後に関連して受けた物的損傷または個人の負傷、もしくは死亡に対するいかなる責任を否認する。

17. 大会期間中の選手の肖像権

本大会期間中の、艇、選手に関連する写真、ビデオ等の全ての著作物、映像に関する権利は主催団体に帰属する。また、これら写真は、SNS 等へ掲載されることがある。これらは、参加申し込みをした時点で同意したものとみなす。

18. ドーピング検査

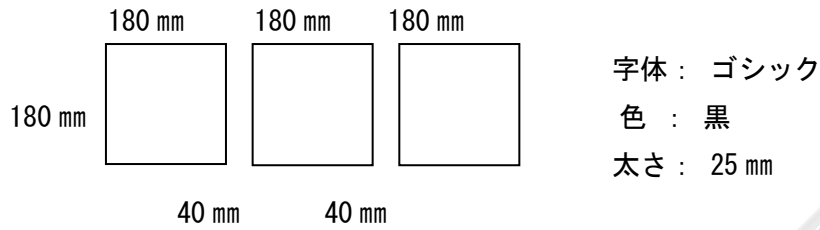
1. 本大会は、日本ドーピング防止規程に基づくドーピング検査対象大会である。本大会参加者は、参加申し込みした時点で日本ドーピング防止規程にしたがい、ドーピング検査を受けることに同意したものとみなす。
2. 未成年者の本大会参加者への参加申し込みにおいては、上記のドーピング検査の実施について親権者から同意を得たものとみなす。
3. 本大会参加者は、大会期間中に行われるドーピング検査を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続きを完了することができなかった場合等は、ドーピング防止規則違反となる可能性がある。ドーピング防止規則違反と判断された場合には、日本ドーピング防止規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。
4. 日本ドーピング防止規程の詳細内容およびドーピング検査については、
(公財)日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト(<http://www.playtruejapan.org>)にて、確認すること。

19. 問い合わせ先

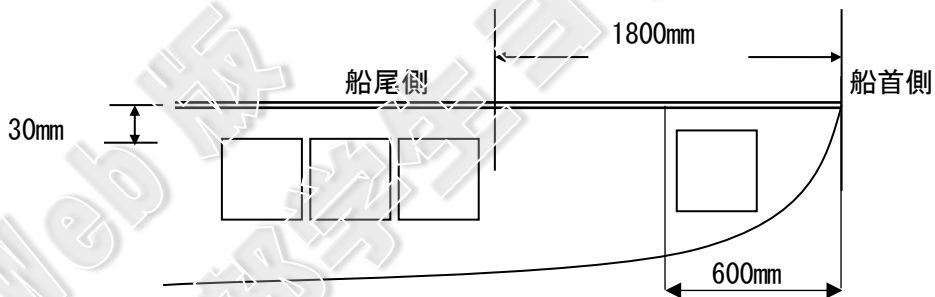
中部学生ヨット連盟 E-mail : chubu.icyf.alljapan@gmail.com

【添付図 A】艇体および識別番号貼付位置

(1) 470 クラス、スナイプクラス



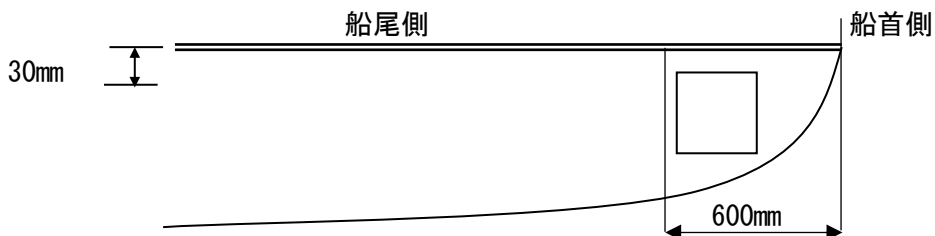
- ・大学名シールは、各大学（または水域）で作成する。
 - ・貼付位置は前部デッキのステムから後方 1800 mm より後ろ近い部分の両側板部分とする。ただし、文字の大きさは 180mm 以上であれば任意とし、それに伴った字間、太さの変動は認める。また、艇体が濃色で黒色では見えにくい場合に限り、白色で表示することも可とする。
- ・識別番号は、バウの先端から、600 mm の間に識別番号を張り付ける。
470 クラス：黒色 スナイプクラス：赤色



* 取り付け位置の若干の誤差は許容する。

(2) レーザーラジアルクラス

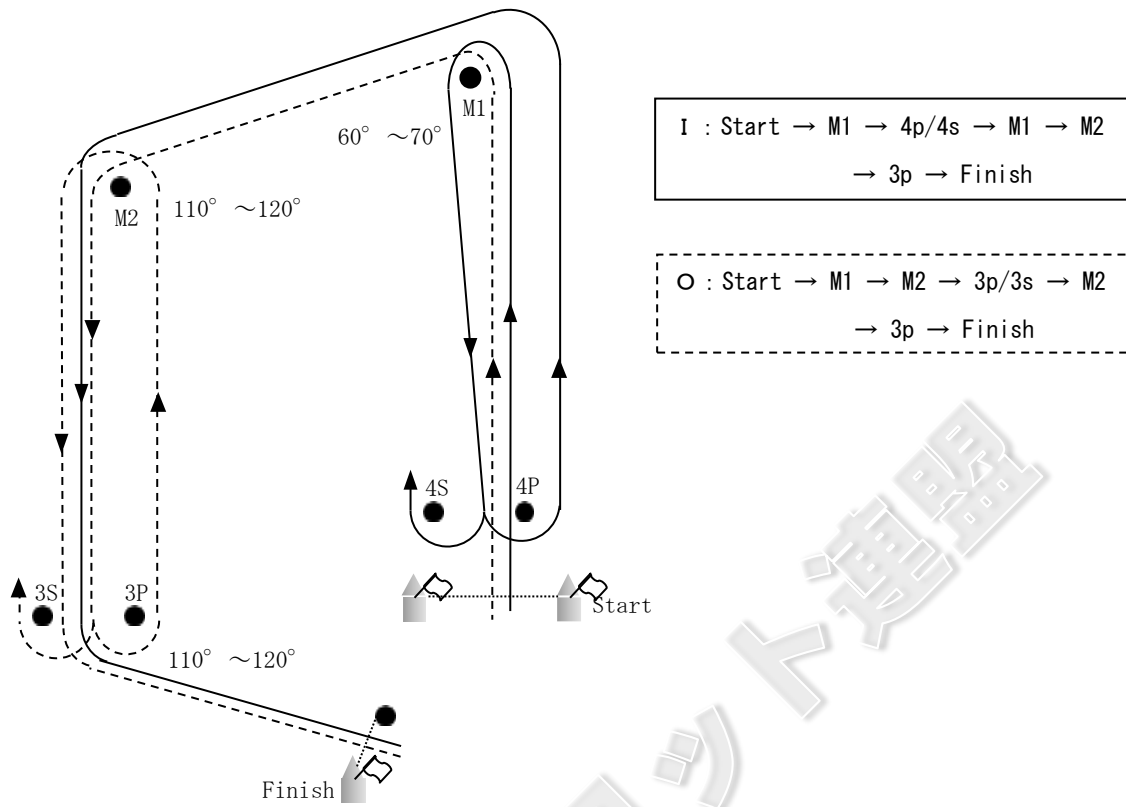
- ・識別番号は、バウの先端から、600 mm の間に識別番号を張り付ける。



* 取り付け位置の若干の誤差は許容する。

【添付図 B】 コース見取り図

470 クラス、スナイプクラス、レーザーラジアルクラス



大会名称：2019 年度 全日本学生ヨット個人選手権大会
2019 年 全日本学生シングルハンドレガッタ
大会期日：2019 年 9 月 5 日（木）～ 2019 年 9 月 8 日（日）
共同主催：全日本学生ヨット連盟・中部学生ヨット連盟

帆走指示書

「SP」レース委員会から審問なしにまたは、プロテスト委員会の審問によりスタンダード・ペナルティ一が課せられる。

「NP」艇からの抗議の根拠とはならない。これは規則 60.1(a)を変更している。

1. 規 則

- (1) 本大会は、『セーリング競技規則 2017-2020』（以下、『規則』という）に定義された規則を適用する。
- (2) 最新の「全日本学生ヨット連盟規約」「470 級学連申し合わせ事項」「スナイプ級学連申し合わせ事項」および「艇体への大学名表示に関する申し合わせ事項」を適用する。これらは全日本学生ヨット連盟にて入手することができる。
- (3) 付則 P を適用する。ただし、規則 P1 文中の『セール番号』は、『セール番号または識別番号』に置き換える。これは規則 P1 を変更している。
- (4) SCIRA 規則の「国内及び国際選手権大会の運営規定」は、同規定 9.1 に定められたレースを行う最大風速に関する規定を除き適用されない。

2. 競技者への通告

競技者への通告は、大会本部前に設置された公式掲示板に掲示される。また Facebook 上に設けられる全日本学生ヨット個人選手権大会サイトにアップされる。サイトの不具合等は、艇からの救済の要求の根拠とはならない。これは規則 60.1(b)を変更している。

3. 帆走指示書の変更

帆走指示（以下、『指示』という）の変更は、それが発効する当日の 08:30 までに掲示される。但しレース日程の変更は、前日の 18:00 までに掲示される。

4. 陸上で発する信号

- (1) 陸上で発せられる信号は大会本部前のポールに掲揚される。
- (2) [NP][SP]D 旗が音響信号 1 声と共に掲揚された場合、「出艇を許可する」ことを意味する。艇は、この信号が発せられるまで、離岸してはならない。スタート予告信号は、D 旗掲揚 30 分以降に発する。D 旗がクラス旗の上に掲揚された場合、そのクラスのみに当該信号が適用される。
- (3) 予告信号予定時刻の 30 分前までに D 旗が掲揚されない場合、そのレースのスタートは時間に定めなく延期されている。

5. レースの日程

(1) レースの日程は次の通りとする。

9月6日 (金)	ブリーフィング	9:45~10:15
	1日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	470クラス	13:00
	スナイプクラス	13:07
	レーザーラジアルクラス	13:12
	以降のレースは引き続き行うものとする	

9月7日 (土)	ブリーフィング	8:15~ 8:30
	2日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	470クラス	9:30
	スナイプクラス	9:37
	レーザーラジアルクラス	9:42
	以降のレースは引き続き行うものとする	

9月8日 (日)	ブリーフィング	8:15~ 8:30
	3日目の最初のレース	予告信号予定時刻
	470クラス	9:30
	スナイプクラス	9:37
	レーザーラジアルクラス	9:42
	以降のレースは引き続き行うものとする	

(2) 本大会のレース数は、各クラス最大 8 レースを予定している。各クラス 3 レースをもって大会成立とする。

(3) 1日に実施するレース数は、次のとおりとする。

日 程	470クラス	スナイプクラス	レーザーラジアルクラス
9月6日(金)	3	3	3
9月7日(土)	4	4	4
9月8日(日)	1	1	1

本大会で計画された全レースを行うため、当日までの計画に対して1レースを超えないまで、レースを前倒しで行う場合がある。

(4) 各日程における各クラスの次のレースの予告信号は、それぞれ実施可能となれば、引き続き実施する。この場合、レース委員会信号艇は引き続き行なわれるレースの最初のクラスの予告信号の5分前以前に音響信号1声とともにオレンジ色旗を掲揚し競技者に通知する。

(5) 9月6日、9月7日は16:01以降、9月8日は13:01以降に予告信号は発せられない。

6. クラス旗

クラス旗は次の通りとする。

クラス	旗
470 クラス	白地に青色の 470 クラスの形象
スナイプクラス	白地に赤色のスナイプクラス形象
レーザーラジアルクラス	緑地に赤色のレーザークラス形象

7. レース・エリア

【添付図 A】に概ねのレース・エリアの位置を示す。

8. コース

- (1) 【添付図 B】の見取り図はレグ間の通過すべきマークの順序及びそれぞれのマークを通過すべき側を含むコースを示す。
- (2) 予告信号以前に、レース委員会信号艇に艇が帆走するコースおよび、最初のレグのおおよそのコンパス方位を掲示する。

9. マーク

- (1) M1、M2、3P、3S、4P、4S は、オレンジ色の円錐形ブイとする。
- (2) マーク移動を行う場合、変更後のマークは、緑色の円錐形ブイを使用する。

10. スタート

- (1) スタート・ラインは、スターボードの端にあるレース委員会信号艇のオレンジ色旗を掲揚したマストと、ポートの端となるレース委員会艇のオレンジ色旗を掲げたポールの間とする。
- (2) [NP] [DP] 他のクラスのスタート手順の間、予告信号が発せられていない艇は、【添付図 C】に示されたスタート・エリアを回避していなければならない。
- (3) スタート信号の 4 分以降にスタートする艇は、「スタートしなかった (DNS)」と記録される。これは規則 A4. A5. A11 を変更している。
- (4) 規則 30.4 が適用されたレースにおいて、ゼネラル・リコール信号が発せられた場合、又はレースがスタート信号後中止となった場合、黒色規則に違反した艇の識別番号をそのレースの次の予告信号以前にレース委員会信号艇の後部に掲示する。これは規則 30.4 を変更している。
- (5) スタートがゼネラル・リコールとなった場合、艇に注意喚起するために、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇に音響信号無しで第 1 代表旗を掲揚する場合がある。信号艇以外のレース委員会艇での第 1 代表旗降下には、レース信号第 1 代表旗の「予告信号は、降下の 1 分後に発せられる。」の意味は持たない。

11. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインは、スターボードの端にある青色旗を掲揚したレース委員会艇のオレンジ色旗を掲揚したポールとポートの端となるオレンジ色の円筒形ブイのフィニッシュ・マークの間とする。

12. タイム・リミットとターゲット・タイム

(1) タイム・リミットとターゲット・タイムは次のとおりとする。

クラス	レースの タイム・リミット	マーク1の タイム・リミット	レースの ターゲット・タイム	フィニッシュ ウィンドウ
470 クラス	75 分	25 分	45 分	15 分
スナイプクラス	80 分	25 分	50 分	15 分
レーザーラジアルクラス	75 分	25 分	45 分	15 分

- (2) マーク1のタイム・リミット内に1艇もマーク1を通過しそうにない場合、レース委員会はそのレースを中止することができる。この項は規則 32.1 を変更している。
- (3) ターゲット・タイムどおりとならなくても、救済の根拠とはならない。これは規則 62.1(a) を変更している。
- (4) 規則 30.3 または 30.4 が用いられた場合、各々に違反しない先頭艇がコースを帆走してフィニッシュウィンドウ以内にフィニッシュしない艇は、審問なしに『フィニッシュしなかった「DNF」』と記録される。この項は規則 35、A4 及び A5 を変更している。

13. コースの短縮又は中止

- (1) 規則 32.1 以外に、レースを続行するに支障を来たす風速の低下が一定期間継続した場合、レース委員会は「レースの中止」又は「コースの短縮」をする場合がある。
- (2) スタートしたレースを中止する場合、艇に注意喚起するために、レース委員会信号艇以外のレース委員会艇に音響信号と共にN旗を掲揚する場合がある。信号艇以外のレース委員会艇でのN旗の降下には、レース信号N旗の「予告信号は、降下の1分後に発せられる。」の意味は持たない。

14. [NP] [DP] ペナルティー方式

規則 44.1 に基づきペナルティーを履行した競技者は、抗議締め切り時間内にプロテスト事務局で入手できる所定の用紙に記入の上プロテスト事務局へ提出しなければならない。

15. 抗議と救済の要求

- (1) 抗議及び救済は、プロテスト事務局で入手できる所定の用紙に記入の上、当日の当該クラス最終レース終了後60分以内にプロテスト事務局へ提出しなければならない。これは規則 62.2 を変更している。但しプロテスト委員会の裁量によりこの時間を延長する場合がある。
- (2) レース委員会またはプロテスト委員会またはテクニカル委員会による規則 61.1(b) に基づく競技者への抗議の通告は、抗議締め切り時刻までに公式掲示板に提示される。これは規則 61.1(b) を変更している。
- (3) 当事者であるか、または証人として名前があげられて審問に関わっている競技者に通告するために抗議締め切り後15分以内に公式掲示板に公示を掲示する。審問はプロテスト委員会においてほぼ受付順に行う。
- (4) 規則 42 違反に対するペナルティーを課せられた艇のリストは、その日のレース終了後掲示される。
- (5) 大会最終日では、プロテスト委員会の判決に基づく救済要求は、判決の掲示から20分以内に提出されなければならない。この項は、規則 62.2 を変更している。

16. 得点

- (1) 艇のシリーズ得点は、完了したレースが5レース以下の場合、全レースの合計得点とし、6レース以上完了した場合、最も悪い得点を除外したレース得点の合計とする。
- (2) 最優秀選手の選出において、470クラス、スナイプクラスで成立したレース数が異なる場合、艇の得点の平均値(小数点以下2位を四捨五入)を求め、少ない方を上位とする。
これでもタイとなった場合は、成立したレース数が多いクラスのヘルムスマンを上位とする。
成立したレース数が同じで得点がタイとなった場合は、規則 A8 を適用する。それでも解けない場合は、両クラスのヘルムスマンを最優秀選手とする。

17. 安全規定

- (1) [NP][SP]出艇しようとする競技者は、その日の08:00からその日の最初のD旗掲揚予定時刻までの間に大会陸上本部前に用意される出艇・帰着表にサインした後に出艇しなければならない。
- (2) [NP][SP]帰着した競技者は着艇後速やかに(レース委員会が正当な理由があると認めた場合その代理人)大会本部前出艇・帰着表にサインをしなければならない。記載は、レース終了後(引き続きレースが行われた場合はそのレース終了後)、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分以内とする。但しこの時間はレース委員会の裁量により延長することがある。
- (3) [NP][SP]転覆その他の理由により帰着が遅れた場合には、その旨をレース委員会に速やかに届け出なければならない。
- (4) [NP][SP]リタイアしようとする競技者は、速やかにレース・エリアを離れリタイアの意思を近くのレース委員会艇に伝えなければならない。競技者は指示17(2)に従い帰着申告を行った後、速やかにレース委員会で入手できるリタイア報告書を提出しなければならない。
やむを得ず運営艇にリタイアの旨を伝える事が出来なかった場合は、リタイア報告書にその理由を記入しなければならない。
- (5) レース委員会は競技者が帆走不可能もしくは危険な状態にあると判断した場合にはその競技者にリタイアを勧告することがある。
- (6) 17の申告に関する手続きに誤りがあった艇に対して、引き続きのレースが行われた場合には指示17(1)の手続きの誤りについてはその直後のレースに、指示17(2)の手続きの誤りについてはその直前のレースにペナルティーを課す。

18. 競技者の交代

- (1) 各クラスともヘルムスマンの変更はできない。
- (2) [NP][SP]競技者は各日の最初のレースの乗員を所定の用紙に記入の上、指示17(1)と同時に大会本部に提出しなければならない。
- (3) [NP][SP]当日の2レース目以降海上で競技者の交代をする場合は、口頭でレース委員会艇に確認を受けなければならない。この場合所定の用紙に記入の上、指示17(2)と同時に大会本部に提出しなければならない。

19. [NP][DP] 装備の交換

- (1) 損傷または紛失した装備の交換は、テクニカル委員会の承諾なしでは許可されない。
- (2) 陸上で装備を交換する場合は、「装備交換申請書」をテクニカル委員会に提出し、承諾を受けなければならない。
- (3) 海上で装備を交換する場合は、近くのレース委員会艇に装備の交換がある旨を伝えた後に、帰着後に「装備交換申請書」をテクニカル委員会に提出し承諾を受けなければならない。

20. 支援者・支援艇

- (1) 支援艇とは、規則の定義にある支援者が乗艇する全ての艇を指す。
- (2) 「NP」「DP」豊田自動織機海陽ヨットハーバー内では、支援艇は、主催団体が指定する棧橋以外に係留してはならない。
- (3) 「NP」「DP」支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしのために一時的に豊田自動織機海陽ヨットハーバーに入港する場合でも、ヨットハーバー事務室にて所定の手続きを行い使用料の支払いをしなければならない。一時的に入港した支援艇は、乗員の乗降、機材の積込み、積下ろしが完了次第、速やかに出港しなければならない。
- (4) 「NP」「DP」艇の安全な出艇を確保するため、豊田自動織機海陽ヨットハーバーより出艇する支援艇は、『D旗』掲揚後 10 分間は係留した棧橋から離岸してはならない。
- (5) 「NP」「DP」支援艇は、氷上にいる間、大会陸上本部で貸与する『識別用リボン』を水面より 1.5m 以上の高さに掲揚するとともに、支給する『支援艇許可証』を目立つように掲示しなければならない。
- (6) 「NP」「DP」支援艇は、最初にスタートするクラスの準備信号から、全ての艇がフィニッシュするか、もしくはリタイアするか、またはレース委員会が延期、ゼネラル・リコールもしくは中止の信号を発するまで、【添付図 D】が示す艇がレースをしているエリアの外側にいなければならない。
- (7) 「NP」「DP」レース委員会艇に『緑色旗』が掲揚された場合、『支援艇は、レースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この場合、指示 20.6 は適用されない。
- (8) 「NP」「DP」支援者は、レース委員会及びプロテスト委員会の無線通信を傍受してはならない。

21. 装備と計測のチェック

艇は、艇または備品が規則に従っていることを確認するためいつでも検査されることがある。

22. 無線通信

競技者は、レース中無線通信を行ってはならない。また全ての艇が利用できない無線通信を傍受してはならない。この制限は、携帯電話にも適用する。

23. 賞

レース公示どおり、賞を与える。

24. 責任の否認

- (1) 競技者は、自分自身の責任において本大会参加している。規則4「レースをすることの決定」を参照されたい。
- (2) 主催団体は、本大会前、本大会中、本大会後に関連して受けた物的損傷または身体障害もしくは死亡に対するいかなる責任も負わない。

25. 運営艇

運営艇は、次のとおりとする。

運営艇	識別旗
レース委員会艇	「C」と白字で記された黒色旗
プロテスト委員会艇	「JURY」と白字で記された赤色旗
レスキュー艇	「RESCUE」と白字で記された緑色旗
テクニカル委員会艇	「MEASURER」と黒字で記された白色旗
メディア艇	「MEDIA」と白字で記された青色旗
VIP艇	「VIP」と黒字で記された水色旗

26. その他

- (1) [DP][NP]競技者・支援者は、大会役員・競技役員の合理的な理由に基づく指示に従わなければならない。
- (2) [DP][NP]競技者は、大会期間中に大会委員会の許可を得ない限り、ハーバー建物内やセンタープラザでの艀装・修理・セールの片づけ等の作業を行ってはならない。

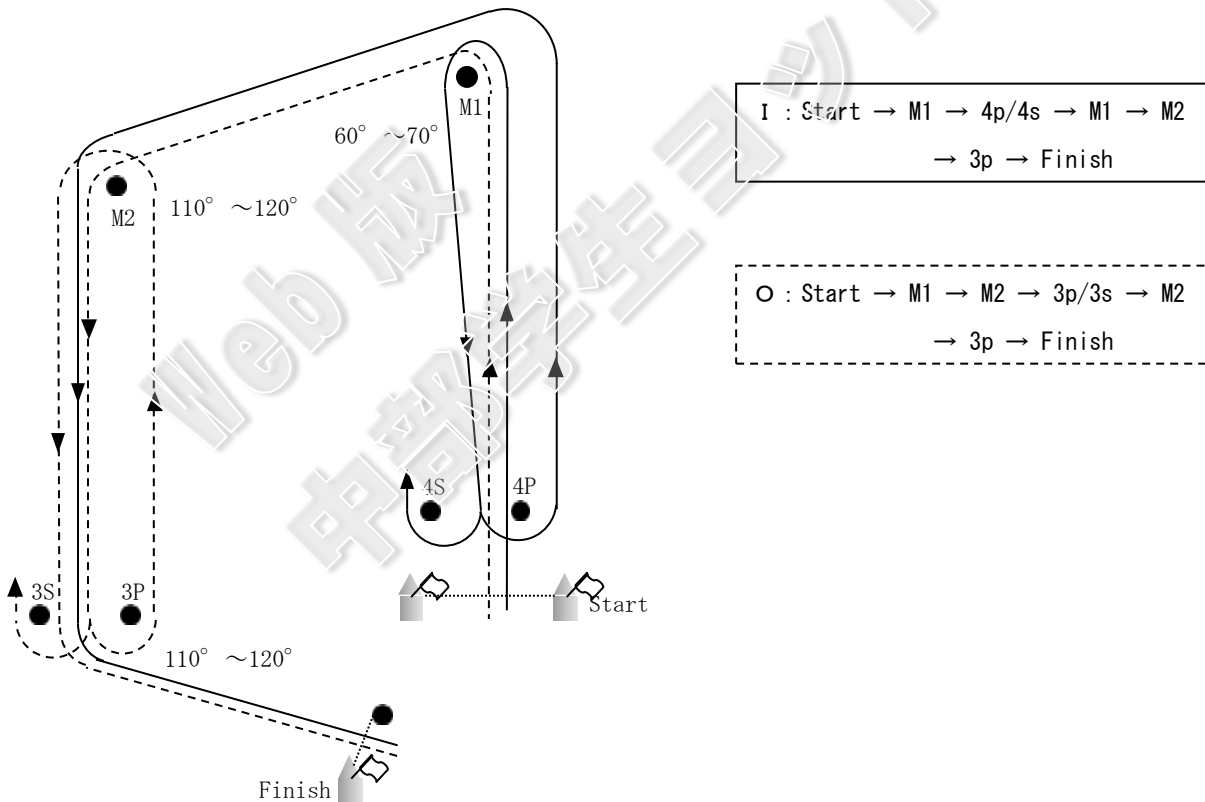
【添付図 A】 レース・エリア



N34. 47. 183 E137. 16. 017 を中心とした、 ϕ 1. 4NM を「レース・エリア」とする。

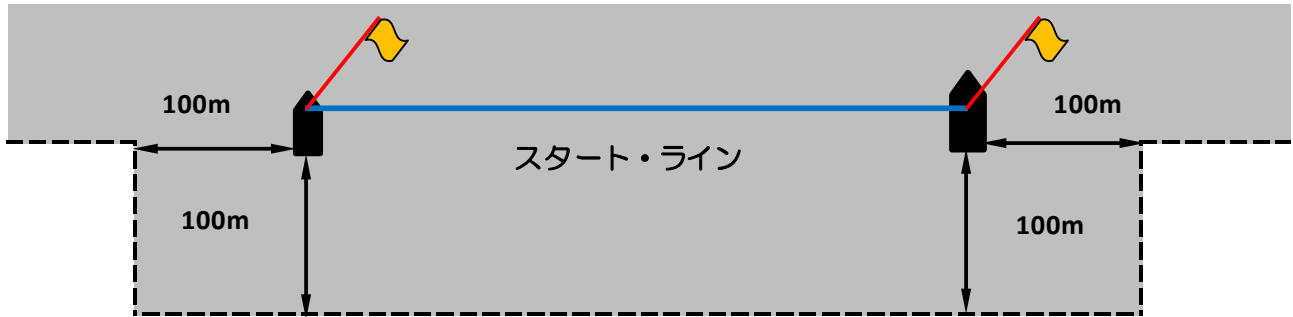
【添付図 B】 コース見取り図

470 クラス、スナイプクラス、レーザーラジアル



【添付図 C】 スタート・エリア

指示 10(3)にて規定されている「スタート・エリア」を点線で示す。

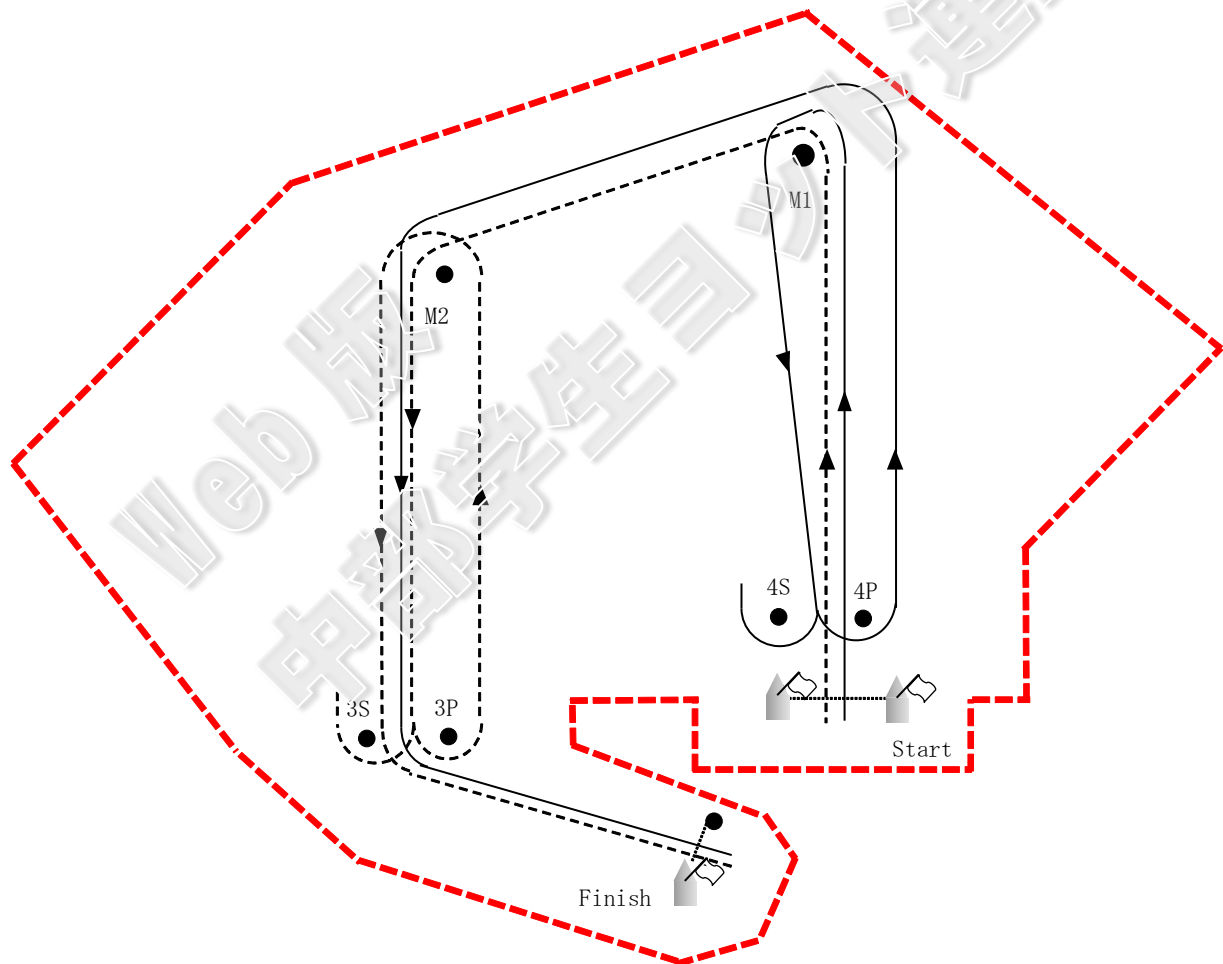


【添付図 D】 レース・エリア

指示 19(2)にて規定されている「艇がレースをしているエリア」

支援者は、レース中以下の図に示す点線の内側に入ってはならない。

この点線は、レース委員会艇、スタート・ライン、フィニッシュ・ライン、マーク及び艇の帆走が予想される位置から距離 100m を示している。



470 Class



水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
北海道	會田誠人	浅川智哉		室蘭工業大学	1	3669
	尾花 賢	野田榮太郎		北海道大学	2	4557
	河村 桂	石村麻優子	小島武	小樽商科大学	3	4684
東北	柳澤 創	稲川竜也		東北大学	4	4534
	向口瑠袈	澤田英史		東北学院大学	5	4441
	小野一清	石川紗穂	佐藤圭亮	東北学院大学	6	4678
関東	小倉晴太	横井 駿		明治大学	7	4672
	千葉康貴	守屋晴喜	伊藤遥稀	明海大学	8	4566
	花井静亜	鈴木真人	青木美優	明海大学	9	4402
	田中美紗樹	新井健伸		早稲田大学	10	4695
	小泉凱皇	嶋田篤哉	清水詩絵	早稲田大学	11	4647
	倉橋直暉	吉村 大	上園田明真海	早稲田大学	12	4562
	西村宗至朗	秦 和也		早稲田大学	13	4561
	佐香将太	松本健汰		早稲田大学	14	4504
	新谷惟斗	服部勇輝		日本大学	15	4714
	本多佑基	中村大陽		日本大学	16	4674
	小柳倫太郎	山田開斗		日本大学	17	4662
	持田春樹	濱野舜斗		日本大学	18	4574
	柳内航平	出本稜太		慶応義塾大学	19	4713
	高宮豪太	久保田空		慶応義塾大学	20	4693
	小木曾涼	櫻本達真		慶応義塾大学	21	4633
	玉山義規	兼子 烈		慶応義塾大学	22	4598
榊原健人	岩田慧吾		中央大学	23	4732	
小西健治	中村海一		中央大学	24	4410	
中部	柴本 陸	兵藤麗奈	矢ヶ崎新	愛知工業大学	25	4638
	並河晃器	五十嵐樹	谷川汐音	名古屋工業大学	26	4704
	大村光輝	深谷旭宏	大西智己	愛知大学	27	4183
	原田憲昌	伊藤大道	甲斐匠	名城大学	28	4635
近畿北陸	松島賢典	渡辺 力		京都大学	29	4685
	中川武洋	藤田 裕		京都大学	30	4174
	岡原和真	長谷川泰誠		立命館大学	31	4643
	藤野流星	東 大雅		同志社大学	32	4694
	續木茄可	三浦 匠		同志社大学	33	4587
	平井徳輝	藤原雄斗		同志社大学	34	4589

水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
関西	嶋野成優	上田賢都		近畿大学	35	4637
	上野 航	木下雅崇		関西学院大学	36	4680
	石川 航	室谷勇希		関西学院大学	37	4594
	池淵砂紀	大野将寿		関西学院大学	38	4529
	菅原 睦	増田宏輝		甲南大学	39	4718
	岸田流星	龍野惣一郎		甲南大学	40	4428
中国	藤井和也	小野裕典		岡山大学	41	4636
	芝 海人	小池 陸		岡山大学	42	4390
	光安歩真	住野有理		広島大学	43	4382
	山田崇資	富山 遼		広島大学	44	4523
四国	黒住将弘	小山田達平		徳島大学	45	4568
	古谷一樹	中尾裕太郎		徳島大学	46	4567
	平川涼香	二橋みづき		徳島大学	47	4392
九州	小村凜平	木原寛太		福岡大学	48	4683
	永野俊輔	佐藤拓海		九州大学	49	4717
	川邊朱里	今津雄登		鹿屋体育大学	50	4467
	宮本健吾	倉地紘平		鹿屋体育大学	51	4337
	樋高陽之助	永田 魁		日本経済大学	52	4634
	河崎 聖	井上雅之		日本経済大学	53	4480

Snipe Class



水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
北海道	堀井純太	米田智樹		北海道大学	1	31519
	遠藤貴仁	秋山健太		北海道大学	2	31416
	濱西拓海	岡本康樹		北海道大学	3	30801
東北	香川昂亮	高橋俊圭		東北大学	4	31378
	上野季輝	横山大星		東北大学	5	31229
	河内万奈	松本 司	浅賀築	新潟大学	6	30927
関東	朝倉史悠	高瀬星都		明治大学	7	31366
	ムルターブレンダン	中村友哉		立教大学	8	31310
	大平京ノ介	與那嶺佑樹		明海大学	9	31165
	入江裕太	原潤太郎		早稲田大学	10	31584
	松尾虎太郎	海老原崇		早稲田大学	11	31380
	尾道佳諭	高橋康太		早稲田大学	12	31306
	蜂須賀晋之介	海老塚啓太	芝崎鉄平	早稲田大学	13	31178
	谷川隆治	川合大貴		早稲田大学	14	30924
	矢野伸一郎	吉永温	廣原周	日本大学	15	31583
	佐藤海志	岡村保乃加	田原直樹	日本大学	16	31379
	杉浦涼斗	林 佳奈	宮野鴻	日本大学	17	31495
	吉武宗浩	阿部佑真	野村大善	東京大学	18	31308
	加藤 卓	曾我駿亮		慶応義塾大学	19	31518
	玉山裕登	秋田理央		慶応義塾大学	20	31092
	横川響平	小野山裕也	門脇広大	慶応義塾大学	21	31006
	山内健史	佐々木謙		中央大学	22	29873
高山颯太	阿部智也		中央大学	23	31009	
荒木陽菜	井上洋輔		中央大学	24	31319	
中部	高柳直角	長尾尚弥	中神大地	名城大学	25	31374
	鷄内あゆみ	藤原啓至	池山耕太	三重大学	26	27897
	田中健太郎	山本理未	岩佐脩佑	三重大学	27	28572
	伊東茶宥	大橋智明	岩田沙希	三重大学	28	29077
近畿北陸	三角 光	今中 芽		京都産業大学	29	31389
	山本晟也	三宅智也		京都産業大学	30	30803
	村山航大	黒田 丈		京都大学	31	31471
	長塚正一郎	長浜拓哉		京都大学	32	30383
	松尾光暉	大前裕也		同志社大学	33	31181
	飯尾隼人	小林侑矢		同志社大学	34	30080

水域	スキッパー	クルー	クルー	大学名	識別番号	セール番号
関西	池崎 遼	芦田章吾		神戸大学	35	31161
	よい道貴	下村旺久		神戸大学	36	31493
	野田空	増田諒子	小道大輔	関西大学	37	28328
	桑原洋樹	吉田奈央		甲南大学	38	31517
	中島悠介	畑山惣一郎		関西学院大学	39	31186
	石川満里奈	竹澤千里		関西学院大学	40	31500
中国	柴田千里	平塚貴大		岡山大学	41	31503
	石田亘希	尾崎洸人		岡山大学	42	31142
	川口滉太	張 韓		広島大学	43	31305
	加藤滉大	伊藤さくら		広島大学	44	30804
四国	岡本大輝	政次亮太		愛媛大学	45	30319
	後藤溪太	村永晃紫郎		松山大学	46	29007
	佐藤飛陽哉	堤 虹葉	丸尾祐希	松山大学	47	30007
九州	岩城海都	松岡諒平	福吉達也	鹿児島国際大学	48	30201
	西島 孝	鹿野千尋		九州大学	49	31557
	竹中修平	西山 彰		九州大学	50	31272
	足立拓馬	笹川陽矢		九州大学	51	31054
	岩下マナード	北林 風花	金城朋輝	鹿屋体育大学	52	30348
	真鍋 優	深田 光	牛島信太郎	鹿屋体育大学	53	30917



Single Hand Class

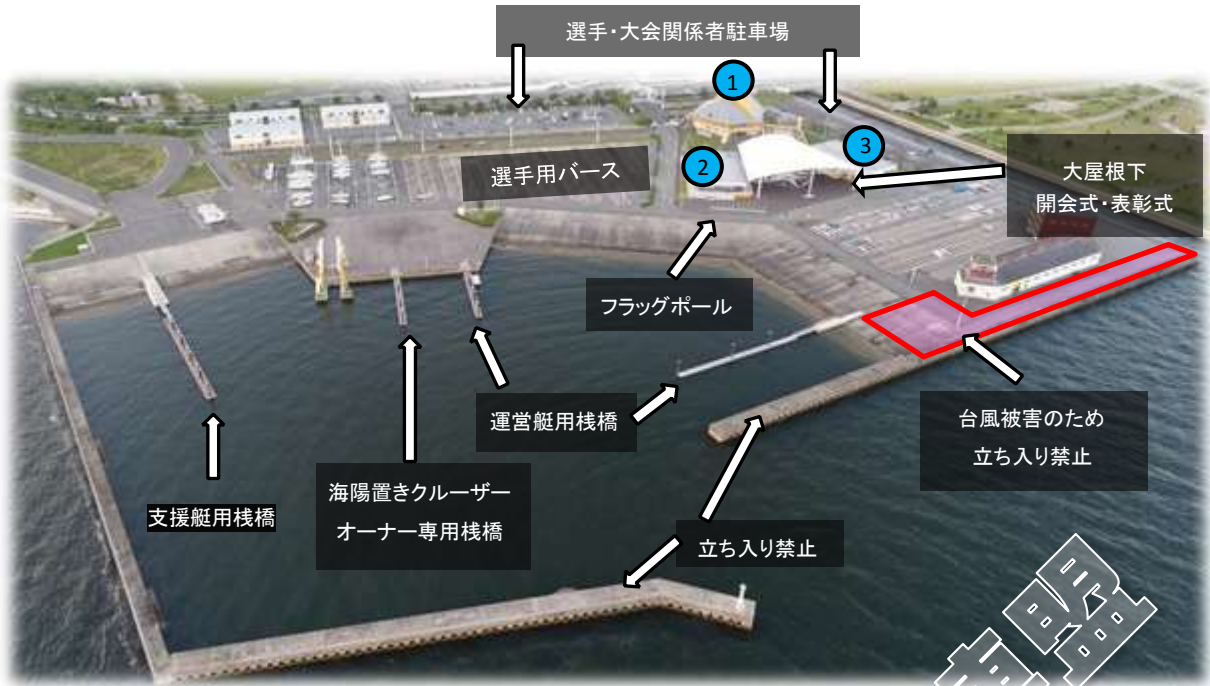
水域	スキッパー	大学名	識別番号	セール番号
関東	佐藤 純	立教大学	1	212803
	横井裕貴	立教大学	2	212805
	中濱光祐	神奈川大学	3	215042
	岡本脩希	防衛大学校	4	208016
	廣瀬翔太	中央大学	5	166015
	多賀谷光	東京大学	6	184053
	尾澤 颯	東京大学	7	207446
	野澤杏樹	一橋大学	8	167319
	山井良太	一橋大学	9	212786
中部	濱田芳樹	愛知工科大学	10	212804
	山下英之	名城大学	11	212802
	前川武弘	名城大学	12	212801
	丸山貴士	名城大学	13	216125
九州	奥田耕大	熊本大学	14	216126
	位田雅治	九州大学	15	216127
	浦 哲郎	鹿児島大学	16	216128
	松清里功	鹿児島国際大学	17	216129
	上村太志	鹿児島国際大学	18	184010
	高橋あい	鹿児島国際大学	19	199061
	石原大地	鹿屋体育大学	20	156084

歴代優勝者

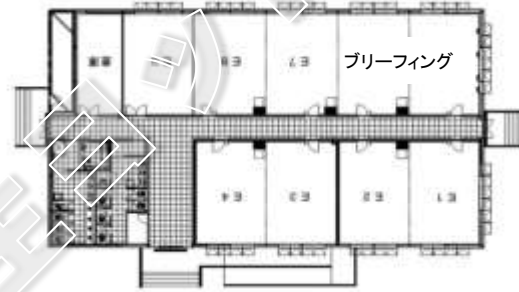
開催年	開催地	クラス	大学名	スキッパー	クルー
1998 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本大学	秋吉 輝人	渡辺 隆蔵
		スナイプ	同志社大学	原口 裕司	木見尻拓宣
1999 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本大学	荒川 海彦	関根悠一郎
		スナイプ	福岡大学	沖西 祥宏	中島 伸義
		シングルハンド	法政大学	栄楽 洋光	—
2000 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本大学	荒川 海彦	関根悠一郎
		スナイプ	福岡大学	中村 匠	讃井 俊博
		シングルハンド	岡山理科大学	鷲崎 隆陽	—
2001 年度	新西宮 Y.H	470	同志社大学	松永 鉄也	佐澤 孝悠
		スナイプ	福岡大学	中村 匠	上田 真聖
2002 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	立命館大学	伊藤 友紀	梶原 孝信
		スナイプ	福岡大学	城 航太	古賀 智彦
		シングルハンド	法政大学	原田 康幸	—
2003 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	第一経済大学	坂口 英章	今井／新居
		スナイプ	福岡大学	城 航太	岩瀬 廣亮
		シングルハンド	鹿屋体育大学	大久保光裕	—
2004 年度	福岡市小戸 Y.H	470	福岡大学	前田 弘樹	木村 彰吾
		スナイプ	福岡大学	古賀 智彦	江口 信雄
2005 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本大学	石川 裕也	野呂 英輔
		スナイプ	同志社大学	西村 裕司	梶本 昇司
		シングルハンド	近畿大学	足田菜穂子	—
2006 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	関西学院大学	市野 直毅	佐藤／牛尾
		スナイプ	日本大学	大井 祐一	中島 貢
		シングルハンド	鹿屋体育大学	藤谷 匠	—
2007 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	福岡経済大学	富岡 潤貴	吉見 亮平
		スナイプ	福岡大学	長谷川 孝	田中 勇祐
		シングルハンド	鹿屋体育大学	安田真之助	—
2008 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	福岡経済大学	宮川 英之	永井 俊之
		スナイプ	福岡大学	川原 秀之	田中 勇祐
		シングルハンド	東海大学	九富慎太郎	—
2009 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本経済大学	飯塚 潮吹	外園 潤平
		スナイプ	早稲田大学	木内 蓉子	芝尾 航
		シングルハンド	法政大学	牟田口 駿	—
2010 年度	福岡市小戸 Y.H	470	慶応義塾大学	河合龍太郎	小川 晋平
		スナイプ	早稲田大学	古谷 信玄	井坂 智

開催年	開催地	クラス	大学名	スキッパー	クルー
2011 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本経済大学	土居 一斗	磯崎 哲哉
		スナイプ	鹿屋体育大学	鈴木 章央	久保 風太
		シングルハンド	—	—	—
2012 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	日本経済大学	土居 一斗	石井 佑典
		スナイプ	同志社大学	西村 秀樹	中川 健太
		シングルハンド	鹿屋体育大学	元津 大地	—
2013 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	関西学院大学	西尾 駿作	俣江／庄野
		スナイプ	関西学院大学	小栗 康弘	浅原／筒井
		シングルハンド	九州大学	橋元 隆	—
2014 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	早稲田大学	小泉 颯作	江畑 陽太
		スナイプ	日本大学	伊村 仁志	大野 雅貴
		シングルハンド	関東学院大学	北村勇一郎	—
2015 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	関西学院大学	神木 聖	甲斐／光森
		スナイプ	同志社大学	山田 剛士	北原 洋
		シングルハンド	専修大学	吉田慎一郎	—
2016 年度	新西宮 Y.H	470	同志社大学	渡辺 駿	三好／上野
		スナイプ	慶応義塾大学	細沼 豪太	畠 広樹
		シングルハンド	関東学院大学	北村勇一郎	—
2017 年度	蒲郡市海陽 Y.H	470	関西学院大学	有岡 翼	大野 雅寿
		スナイプ	早稲田大学	永松 礼	川上 健太
		シングルハンド	鹿児島国際大学	岩城 海都	—
2018 年度	東京都 若洲ヨット 訓練所	470	日本経済大学	平野 匠	野田 友哉
		スナイプ	早稲田大学	松尾虎太郎	海老沼 崇
		シングルハンド	鹿児島国際大学	岩城 海都	—

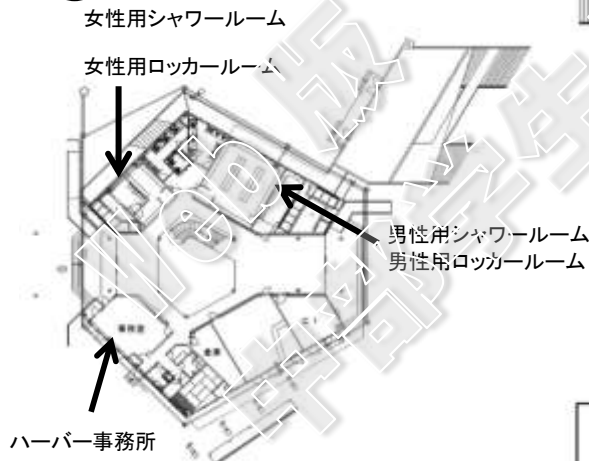
会場案内図



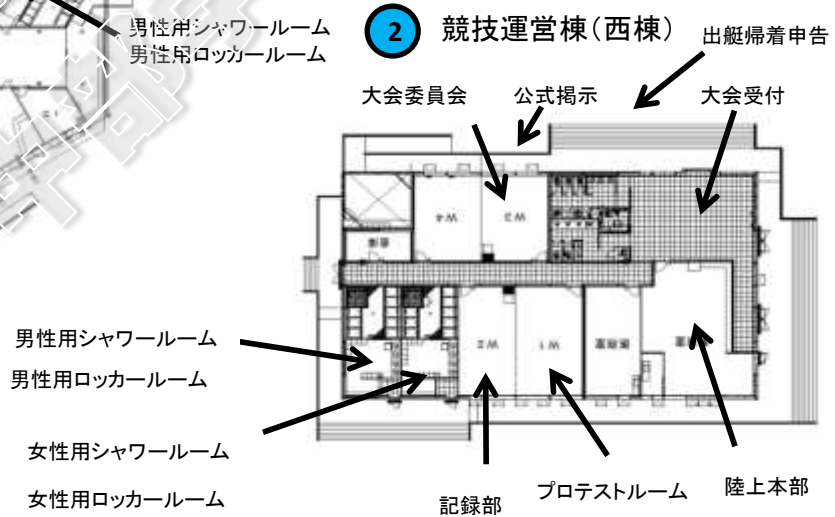
③ 会議メディア棟(東棟)



① クラブハウス中央棟 1階



② 競技運営棟(西棟)



大会最終日の注意事項

(1) レース艇搬出について

レース終了後は、艇の搬出について以下の通りお願いします。

選手の安全確保のために、艇の積込みは抗議締切り時間以降とします。

抗議締切り時間以前は、積込用トラックは、赤色のエリアで待機下さい。

ハーバー構内の道路は、「前詰」「左側車線駐車」で待機下さい。矢印の示す通り一方通行で進んでください。

満車となった場合は、入口で入構制限を行います。

抗議締切り時間以降、船積みを開始下さい。

黄色のエリアにトラックを駐車させ、安全を最優先に艇の積込みを行って下さい。

指定場所以外の駐車、一時的なものを含みバース内への車両進入は厳禁とします。

艇、運営艇の移動のために、水色のエリアでは、艇の積み込みを行わないで下さい。

船積みが完了した車両は、速やかに退出下さい。各校、譲り合いの精神での対応をお願いいたします。



(2) 支援艇の揚収について

抗議締切時間までは、クレーンは支援艇の揚収を優先とします。

抗議締切時間以降は、運営艇の揚収を優先とします。

クレーンを使用するの支援艇揚収を希望するチームは、帰着後速やかに揚収下さい。

クレーンを使用するのトラックへの艇・支援艇の積込みは、運営艇の揚収後といたします。

ビジターヤード区画表

海陽ヨットハーバー 西ビジターヤード区画表

40	20	40	20	45	25	50	23	22	北海道	8
39	19	39	19	44	24	49	22	21	室蘭工業	7
38	18	38	18	43	23	48	21	20	小樽商科	6
37	17	37	17	42	22	47	20	19	東北	5
36	16	36	16	41	21	46	19	18	東北学院	4
35	15	35	15	40	20	45	18	17	東北学院	3
34	14	34	14	39	19	44	17	16	明治	2
33	13	33	13	38	18	43	16	15	日本	1
32	12	32	12	37	17	42	15	14	日本	
31	11	31	11	36	16	41	14	13	日本	
30	10	30	10	35	15	40	13	12	日本	
29	9	29	9	34	14	39	12	11	日本	
28	8	28	8	33	13	38	11	10	日本	
27	7	27	7	32	12	37	10	9	日本	
26	6	26	6	31	11	36	9		470・スナイプ	
25	5	25	5	30	10	35	8		D (計22艇)	
24	4	24	4	29	9	34	7		凡例	
23	3	23	3	28	8	33	6		北海道水域	
22	2	22	2	27	7	32	5		東北水域	
21	1	21	1	26	6	31	4		関東水域	
				25	5	30	3		中部水域	
				24	4	29	2		近北水域	
				23	3	28	1		関西水域	
				22	2	27			中国水域	
				21	1	26			四国水域	
						25			九州水域	
						24				
						23				
						22				
						21				
						20				
						19				
						18				
						17				
						16				
						15				
						14				
						13				
						12				
						11				
						10				
						9				
						8				
						7				
						6				
						5				
						4				
						3				
						2				
						1				

撞り当ての無い場所は、一般の方が使用するため選手は使用しないで下さい。

お客様とともに 前へ

一歩ずつ、まっすぐに。

明治商工は、安心な現場づくりの
パートナーを目指し進み続けます。

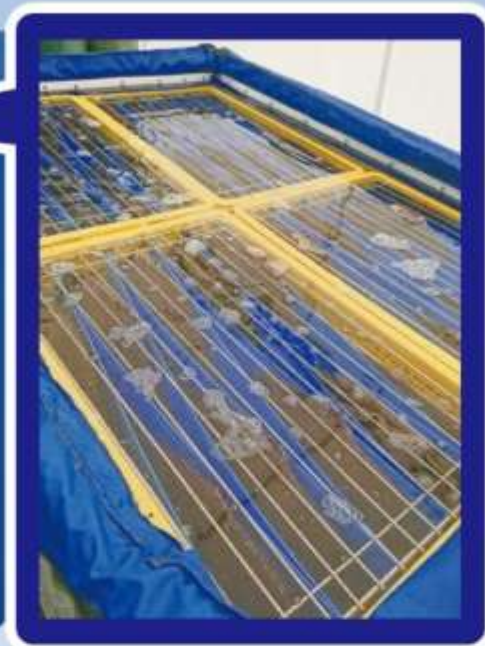


建設仮設資材
明治商工株式会社

[本社] 〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1
東京流通センター センタービル3階
TEL 03-6404-4446 FAX 03-6404-4447
URL <http://www.meijishoko.com>

— CO2睡眠で活魚輸送の未来を変える —

過密**活魚**輸送を実現!!



日建魚活ボックス
本商品はレンタル品です。



魚活ボックスの便利な使い方!!

1 CO²による低活性化輸送で過密状態でも 24時間の長時間輸送に対応!

低活性化により、小型でありながら収容密度25%以上の過密・24時間の長時間輸送を行えます。
もちろん少量、近距離の場合はCO₂を使わずそのままの配送が可能です。

2 少量配送、大量配送どちらにも対応可能。

バッテリー、エアレーション機能等搭載のため1台から輸送が可能。水量を調整すれば2t車から運ぶことが出来ます。
水槽1台で魚の収容量約300kgです。また大型車両に8台積載すれば、大型活魚車と同等の量を輸送できます。

3 一時蓄養の水槽としても利用可能。

AC100Vコンセントも付属しているため、積込み前のバッテリー消費節約だけでなく、蓄養槽として常時装置を稼働させることも可能です。

日建リース工業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町2-7-8 住友水道橋ビル3階 TEL:03-3295-9111 FAX:03-3219-6290

未来のお得。 レコロジー。

ヨットレースには、
シーマンシップ。
エコロジーには、
賢いレンタル。
未来社会の環境は、
レンタル・エコロジーで、
はじまり、始まり。



仮設機材のリース・レンタル

日建片桐リース株式会社

〒004-0015 札幌市厚別区下野幌テクノパーク2-1-14

☎011-807-6555 (代表)・FAX011-807-6556

<http://www.katagiri-g.com>

ISO9001 認証



MSA-QS3674
札幌支店
北海道本社工場

私たちに風を作ることはできないけど
一生懸命がんばってる君たちがいるから
何もせずにはいられない。

海

は、青春の航跡。

+ 日建・レンタコムグループ

日建レンタコム株式会社・日建リース工業株式会社
株式会社レンタコム・日建片桐リース株式会社